

熊楠ワークス

/ C / O / N / T / E / N / T / S /

- 第16回南方熊楠賞受賞者決まる …1面
 南方熊楠顕彰館5月14日オープン …2面
 ゲスナー賞(銀賞)受賞 …3面
 南方熊楠の湯 安田忠典 …5面
 「熊楠」生物覚え書② 土永知子 …9面
 熊楠ゆかりの地を訪ねる 中瀬喜陽 …10面

vol
27

今年は戌年、犬のお話を和歌山市の方言で語ってみましょう。

「むかし、神さんが、動物の体をお造りになったんやけど、犬だけ足たらんようになって、3本しかつけられんかったんやと。ほいたら、犬歩くんが難儀したんで、神さんとこい行って、足欲しよて頼んだんやけど、神さん、足みな使こてもたよつてに、どないしようにちゅうて、思案してもて、囲炉裏の灰をば火箸でかき回してたんやと。ほいたら五徳あつたんで、五徳やつたらじっとしてるだけやよつてに、1本もうても だんないやろちゅうて、それもうて 犬につけちゃつたんやと。そやよつて、犬その足大事にして、おしっこする時もかからんよに足あげてるんやして」

こんな感じの和歌山弁で書いた民話集を春に出すのですが、きっと読みづらいので誰も買ってくれないでしょう。でも、南方熊楠の著作集も、わたしには最初は読むのに難儀したのに、そのうち味が出てきて「なんともたまらん」ようになりました。それは「わたしに向かって語ってくれている」ように思えるからです。今「語り」が少なくなってきました。自分の声で、自分の言葉で「語り」たいものです。



絵・エッセイ/
 松下千恵(わかやま絵本の会代表)
 絵は、絵本「南方熊楠」から